

令和8年 3月26日

## 令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

埼玉県		
学校名	管理機関名	設置者の別
上尾市立原市南小学校	上尾市教育委員会	公立

## 1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価・保護者評価の結果公表に関する情報

自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市南小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の自己評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html</a>
学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市南小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の学校関係者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html</a>
保護者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	上尾市立原市南小学校ウェブサイト 令和7年度特別の教育課程の保護者評価結果について <a href="https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html">https://www.city.ageo.lg.jp/site/haraichiminami-elementaryschool/list398-2628.html</a>

## 2. 特別の教育課程の内容

## (1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまでALTの配置や、各校、カリキュラム・マネジメントにより、柔軟な時間割の編成を行う（時間割・日課表・年間行事計画等の工夫、モジュール学習、週29コマ等）など、英語教育を推進してきた。平成30年度から、小学校3・4学年で35時間を、小学校5・6学年で70時間の活動型の英語教育として、外国語活動を実施してきた。

また、令和元年度から、小学校1・2年生においては、学校教育法施行規則第51条に定められる授業時数以外で、年間10時間程度の外国語活動を実施するほか、英語の授業以外に、休み時間等を活用し、児童とALTが自由に会話を楽しむイングリッシュトークの実施を通して、日常的にALTと触れ合う機会を充実させ成果を上げてきた。

学習指導要領の完全実施に伴い、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

ア 小学校1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施する。

イ 本市の研究組織である英語活動充実のための検討委員会は、上記アの時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

**(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性**

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、英語活動を通して、グローバル化社会で活躍する力を育成する。

ア 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。

**(3) 特例の適用開始日**

令和2年4月1日

**(4) 取組の期間**

無期限

**3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果**

**(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況**

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・計画通り実施できている</li><li>・一部、計画通り実施できていない</li><li>・ほとんど計画通り実施できていない</li></ul> |
|---|

**(2) 実施状況に関する特記事項**

- ・11月に「English Week」を設定し、全学級において英語活動・外国語活動・外国語の公開授業を実施した。保護者に授業を直接公開したことで、実施アンケートでは実情に即した具体的な評価が得られた。
- ・児童が英語を身近に感じることができるよう、
  - ① ALTや学校応援団の方と会話する「English Cafe」の実施
  - ② ALTと給食を一緒に食べる活動
  - ③ 高学年による「Minamiスピーチコンテスト」の実施・参観
  - ④ ALTによる外国語掲示板の作成など、各種イベントを行った。
- ・小学校第1・2学年において、1年生は年間34時間、2年生は年間35時間、生活科の時間を削減し、英語活動を実施した。
- ・日々の授業ではALTと連携し、「触れよう・慣れよう・慣れ親しまおう」という流れで英語によるコミュニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。
- ・ALT派遣会社による校内研修を2回実施し、教員の英語力や英語指導力の向上に努めた。

- ・学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を実践するため、英語活動充実のための検討委員会が開発した指導案及び教材を活用し、授業を行った。

### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・実施している</li><li>・実施していない</li></ul> |
|--|

#### <特記事項>

- ・学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を情報発信した。
- ・保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。

## 4. 実施の効果及び課題

### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」ことを目指し、小・中9年間を見通した英語教育を推進するものである。

本校の英語活動実態調査・意識調査の結果を分析すると、「英語活動の時間が好きか」の項目で1年生が92%、2年生が86.2%の児童が肯定的な回答だった。これは、児童の興味関心に合った題材で、言語活動が行われているからだと考える

一方、「外国人や友達の質問に反応し、自分の考えを伝えているか」の項目で1年生が73%、2年生が57.5%という数値を示しており、学年によって差がみられるが、自信をもってコミュニケーションしようと思えている児童が昨年度よりも減ってしまった。引き続き、英語活動の授業の中でも、言語活動を重視した活動を取り入れ、児童たちが自信をもって考えを伝えられる場の設定を行う必要がある。

### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、ALTが常駐配置されているため、児童は授業以外でもネイティブ・スピーカーの生きた英語を体感し、実生活に近い状況での英語によるコミュニケーションを経験したり、異文化に触れたりしている。そのため自然と他国の文化を尊重する心を育てている。

また、ALTの問いかけに対して無反応の児童がほぼおらず、積極的にコミュニケーションを図ることができていた。コミュニケーションの楽しさや重要性に気づいているかという項目では、1年生が90.3%、2年生が81.3%と意識が高い。これは、子供たちが「あんなこと言いたい、こんなこと言いたい」と思わせる目的・場面・状況を設定することで、英語活動で慣れ親しんだ語彙や表現を用いながら、思いを伝え合い、わかりあえたときの喜びや楽しさを感じさせたことの成果だと考える。コミュニケーション能力が着実に育成できており、特別の教育課程による取組の効果が表れている。

一方で、「外国語を生活に取り入れていますか。」という項目は1年生は40.3%、2年生は30.8%にとどまった。普段の生活で外国語を使う機会が少なく、コミュニケーションの学習が実生活に結びついていないことがわかった。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

上記の課題を踏まえて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図りながら、今後は学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価を進めていくことが重要であると考えている。英語活動充実のための検討委員会で作成した指導案例及び教材の活用、また、市教委主催の研修を活用しながら、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を推進していく。また、保護者や地域住民の方々に英語活動の目的を理解していただけるように、引き続き情報発信を行っていく。